

とよくに きく

「豊国の企救の浜」

～小倉・赤坂海岸の浜辺・浜松～

・万葉集には豊国の企救の浜を詠った歌が何首かある。

・次の歌は「もの」にたとえて思いを述べる歌である「譬喩歌」に分類され、その「もの」は「浦の沙（まなご）に寄す」即ち浜辺の砂に例えられる。

とよくに

きく

まなご うち

1) 豊国の 企救の浜辺の 真砂子地

まなほ

真直にしあらば 何か嘆かむ

卷七—1393 作者…未詳

（解説）豊国の企救の浜辺の細かい砂地のように、あの人が素直であったなら何で嘆くことなどありませんよう。

*「真砂子地」とは、細かい砂の土地 *「真直」とは「まっすぐ」「素直」の意。

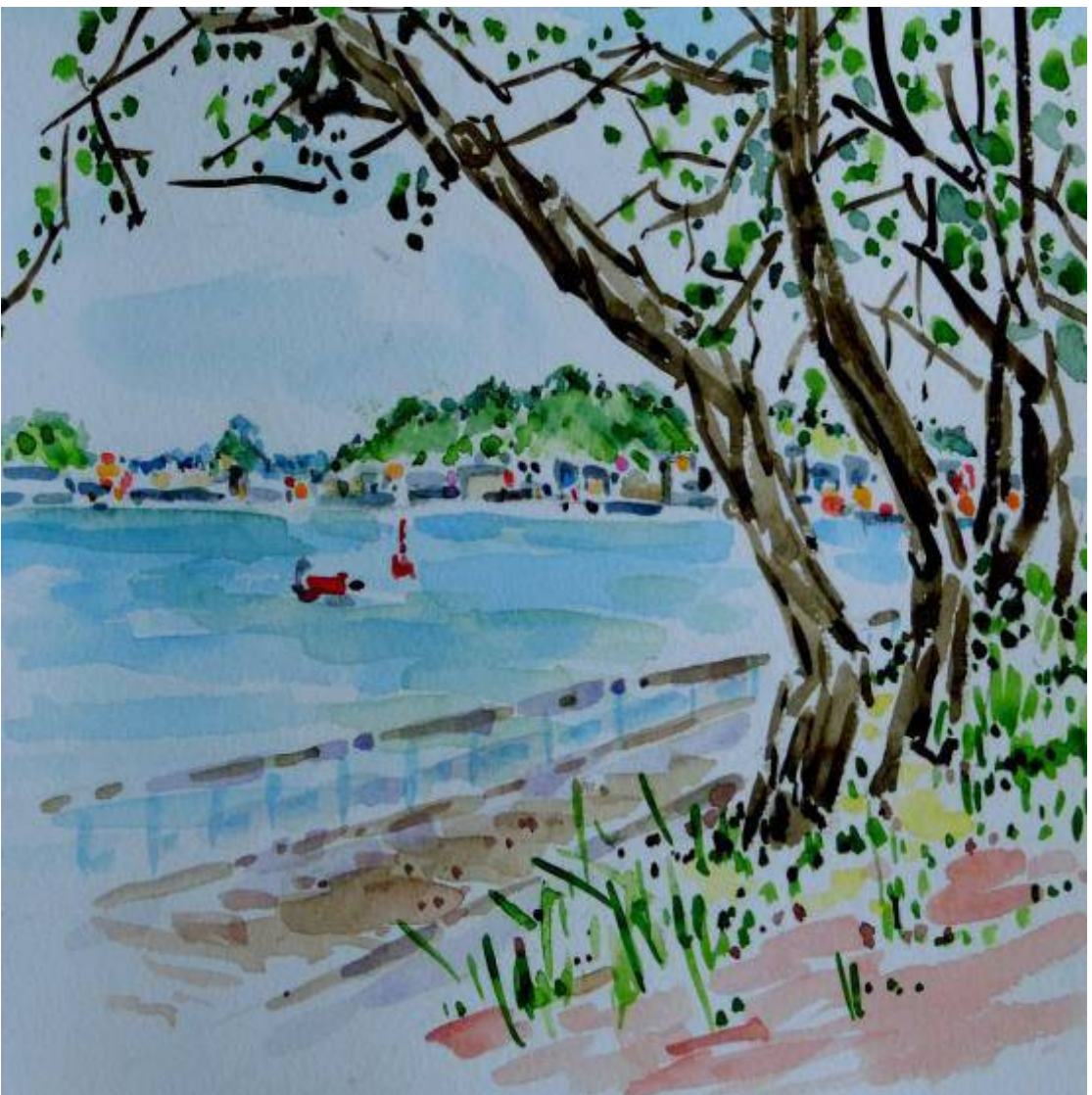
・「豊国の企救」とは古代から近代にかけての郡名「豊前国企救郡」のことで、今の北九州市の門司区・小倉北区・小倉南区を含む地域の旧地名である。

・門司区には古代に奈良の都からの九州の門戸（もんこ）であり九州の陸の起点であった古代道路の「西海道豊前国・社崎駅（みさき）」が置かれたとされ、この地から大宰府への官道（西海道大宰府路）が西にある小倉に置かれたとされる「到津駅（うりつ）」へ向っていた。

・万葉集に詠われる「企救の浜」は「福岡県の地名（日本歴史地名大系）」辞典では

現・門司区から小倉北区にかけての海岸部に比定されるとある。この浜は対岸に彦島（山口県下関市）を望み、昔は白砂青松の美しい海岸であったと伝えられるが、今は一帯の海岸が埋め立てられ、海岸沿いに国道（199号線）が走り、その沿線には海運関係の会社、工場、倉庫等が立ち並び、ほとんど昔の面影がないが、わずかに埋立後の関門海峡に面する海岸線の中心地近くに造成された赤坂海岸（小倉北区）と隣接する延命寺臨海公園の松林の風景が昔を偲ばせてくれる。

（写生地）赤坂公園西端地から北に関門海峡の西の入口付近の海域と対岸に下関市彦島、東に門司の町並。その背景に門司区のシンボルの一つ風師山（かざしやま362m）がそびえる。また、遠くに本州と九州を結ぶ関門橋と下関の山々を描く。（杏花）



・万葉集にはさらに豊国の企救の浜を詠った「きりよ羈旅に思をおこ發す」即ち、旅先にあつて
思いを述べた次の歌がある。

とよくに きく
2) 豊国の 企救の浜松 根もころに 何

あひい そ
しか妹に 相言ひ始めけむ

卷十二—3130 作者…未詳

(解説) 豊国の企救の浜を歩きながら思う。この浜の松の根が地に食いこんでいるよ
うに、どうして妹と親しい言葉を交わすようになったのだろうか。

(参考文献) 岩波書店・日本古典文学大系、轟良子著「北九州文学散歩」福岡県の地名(日本歴史地名大系)等

